



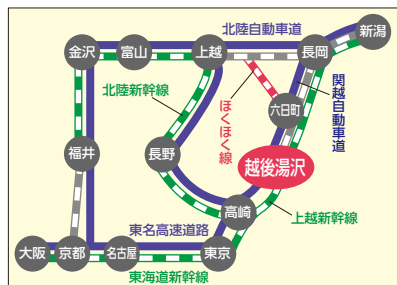
川上四郎プロフィール

(かわかみ・しろう 1889～1983)

1889年11月16日、新潟県長岡市に生まれる。旧制中学校在学中、図画教諭の影響を受け画家志望を決める。

1913年東京美術学校西洋画科卒業し、同研究科へ入学。同年12月、静岡県の手原中学校へ、図画の教師として赴任。1916年、上京して「コドモ」「良友」などの児童雑誌を出していたコドモ社に入社し、編集絵画部担当として童画を描き始める。また、コドモ社社長木元平太郎の後任として、独協中学校で図画の教師を4年間勤める。1927年第1次日本童画協会結成に参加。1942年、第2回野間挿画奨励賞を受賞。1943年ころから東京と越後湯沢の間を行き来していた。1945年、戦争の激化にともない家族も越後湯沢に疎開し、以後は家族とともにこの地で暮らすようになる。1970年、久留島武彦文化賞を受賞。晩年は、童画界の最長老として健筆をふるい良寛の絵本も2冊手がけている。

終生童画一筋に生き、牧歌的な風景や生き生きと動きまわっている農村の子供達など、心和む作品を描き続け、1983年94歳で、永遠の眠りにつく。



車での所要時間
(関越自動車道 湯沢IC)

- 東京～湯沢間(167km).....約1時間50分
- 新潟～湯沢間(131km).....約1時間30分
- 金沢～湯沢間(339km).....約5時間

鉄道での所要時間

上越新幹線

- 新潟から.....45分
- 東京から.....1時間10分

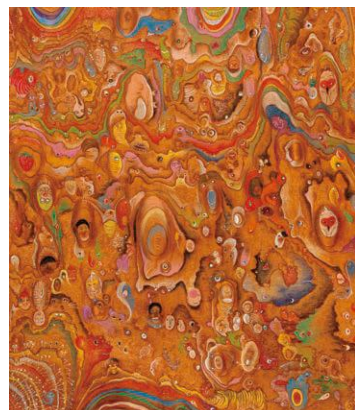
北陸新幹線:上越新幹線

- 金沢から.....2時間30分
- 長野から.....1時間30分
- 富山から.....2時間10分

第30回 越後湯沢全国童画展 優秀作品の紹介



〈大賞〉
「玉子どろぼう」
阿部 広



〈最優秀賞〉
「木の太の妖精達」
渡辺 幸夫



〈優秀賞〉
「自然の記憶」
尾形 良一

日本童画の父 川上四郎記念

第31回

『越後湯沢全国童画展』 作品募集要項・出品票



「童画」とは童謡や童話のように、
大人が子どものために描く絵画のジャンルです。
子どもたちに伝えたい想いや自身の子どものころの思い出、
自分の中の子どもに語りかけようかな心の内を、
絵画で表現してみませんか？

主催／『越後湯沢全国童画展』実行委員会
湯沢町・湯沢町教育委員会

後援／新潟日报社・BSN新潟放送・
NST新潟総合テレビ・TeNYテレビ新潟・
UX新潟テレビ21・FMゆきぐに

心にあふれる夢を描こう

童画家 故・川上四郎氏は純粹素朴の童心を基調とした夢あふれる童画の創作活動を湯沢町において続けてきました。

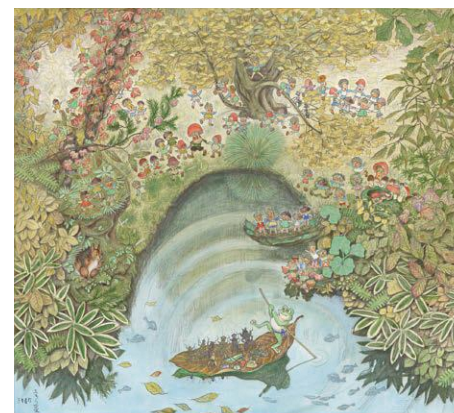
湯沢町ではその功績を伝えるとともに、童画の持つ創造性や文化性を織り込んだ個性あふれる魅力的な町の実現をめざし「川上四郎記念 越後湯沢全国童画展」を実施いたします。

童画の町・ゆざわをともに創り上げてくださる童画作品をお待ちしております。

川上四郎 作品紹介



「えんそく」



「蛙の船頭さん」